

来週私は誕生日を迎え27歳になります。10年ほど前の自分の高校生活を思い出し、感慨にふけるこの頃です。そんなことより、みんなは今週末の地区総体と再来週の間テストですよ。そんな青春時代を過ごす君たちへ激励を。

1 年次「ここだけの話」

高校のテストは甘くない(実体験)。少なくとも私はたった一週間の準備でなんとかあったことは一度もないです。(ここでいう「なんとか」とは平均点に届くくらいのことを言う)

テスト前は部活がなくなるからその分勉強ができる!と思っている君。それは罠です(実体験)。時間ができると何でもできそうな気がするけどそれが油断を生む。「まだ一週間」が気づけば「明日テスト」になり、ギリギリでテスト範囲のワークを開くが、毎日の蓄積がないからほとんどわからない。何より、いざ普段より勉強しようと思っても集中力が続かない。とりあえず答えを見ながら一応範囲の問題を解き、わかったつもりで臨む「付け焼刃受験」には結果など伴わない。

普段の学習習慣が不安定なのに、急に頑張れると思っていたのが9年前の私のミスでした。

(その後私は高3春の古典と英語の覚醒まで、補習軍団の筆頭として名を馳せることになります)

徐々に運動するとすぐ息が上がるでしょう?それと同じです。日々の勉強が習慣になっている人とそうではない人とでは、勉強に対するスタミナが段違いです。後者は当然満足な点数は期待できません。一方で、今回は授業が始まったばかりだからどうしたってテスト範囲は狭いから高得点のチャンスでもある。周りが高得点を取るなかもし、準備を怠ってしまうと…。

1年生諸君、実は今が高校生活を左右する分岐点かもしれない。チャンスは逃すな。

2 年次「その向こうへ」

1年生の時の成績はどうでしたか?うまくいった人はその調子です!逆に、「早めに準備する」「毎日少しずつやっておく」「わかったつもりにならない」と、テストが終わるたびにこう思ってきた人もいないのでしょうか。次は、次こそは…。あれから君は何か変わっていますか?

今くらいがギリギリ「早め」です。今から「毎日」頑張ると、「わかった」ところを増やしてテストに臨めます。去年の自分を超えてゆけ。これを(最後まで)読んだら勉強開始です。

推薦入試を考えている人は少しずつ評定を気にしてみましょ。各大学では推薦基準として評定平均があります。しかし平均とはシビアなもので、例えば、2年生までの評定平均が3の人が3.5に上げるためには、3年生の成績はいきなり4.5にしなければなりません。(1年12科目で計算)また平均の仕様上、3.5から4に上げたり、4から4.5にしたりするのはもっと大変です。勉強もそうですが、遅れや不足はなかなか取り返せません。一瞬も気を抜けないのです。

3年次「できっこないを やらなくちゃ」

3年生で推薦を考えている人は評定を気にする、なんてことは言わずもがな。(自分の評定平均が気になる人は急いで担任の先生に確認！)

ところでみなさんは「受験勉強」はじめましたか？あ、まだそんな時期じゃない？なるほど。じゃあいつからスタートしますか？部活を引退したら？夏休みから本番？秋が勝負？冬？

「受験勉強」は始まるものじゃない。他でもないあなたが始めるものです。さっきも書きましたが、時間ができて急には頑張りません。頑張れる人というのは、普段から隙間の時間や、放課後や土日に固定された時間を作っている、生活の中に勉強がすでに組み込まれている人です。

もちろん部活や行事に本気で取り組むのはかまわない。ただ、それを理由に今の勉強をおろそかにするのは違う。時間が限られているからこそ、意識を変えてほしい。部活の引退前の今やっているその1問が、冬に合否を分ける1問になるかもしれないぞ。

言うは易く行うは難し。でも君たちなら頑張れる。運動会、みんな最高に輝いてたじゃないか！あれほどがむしゃらに何かに取り組める君たちだからこそ期待するのだ。意識が変われば必ず良い方向に世界が変わる。今度は最後の大会でも、受験生としてでも、全部で輝いてみせてくれ。まずは今週末の地区総体、からの中間テスト、そして県総体。この怒涛の日程を全力で駆け抜けてみろ。

youth (青春)

私は学生時代勉強が好きじゃありませんでした。嫌な言い方になりますが、中学校までは何をせずともいい成績だったので、とことん勉強はしなかったです。だから高校ではとんでもなく沈み込みました。そこからはずるずると悪い方向へ行きます。課題はさっぱりわからない。それでも提出物を出さないと部活に行けなかったの、答え丸写し(たまにわざと間違えるという小細工込み)で提出。もちろん成績はぐんぐん下がります。(最近実家で高校の成績表を発掘したので、「自分への戒め」として毎日見えています)

高2の春、漢文のワークを同じように提出したら、新しく赴任してきた先生に「二度とあなたのワークを見たくない。別に成績も下げないから出さなくて結構」的なことで、表紙に大きな×印も添えて赤の太マッキーでぐちゃぐちゃにされたワークが返ってきました。(令和じゃありません)そんなことをされたら反発心するのが思春期男子。逆に次は一文字も逃さず意味や接続を丁寧に調べあげて書き込みし、書き下し文、現代語訳をびっちり添えて提出しました。すると今度は赤ボールペンで間違いをことごとく添削された、またもや真っ赤なワークが返ってきました。悔しかったので次からはもっと頑張りました。あえてその先生に質問にいたりもしました。

それからしばらくして。だんだんなんだか漢文がめっちゃくちゃすらすら読めちゃうようになり、何かのテストが手応えばっちり、結果も見事1位(タイ)になりました。(理系のくせに)。そこで「できるように、わかるようになっていく」感覚はかなり中毒性があることに気づきます。そこからちょっと勉強頑張ってみようと思えます。わからないときは調べたり、答えを見たりしますが、それらを聞く前に必ず、自分の知識や周りの文章などから、ある程度予想してから調べるというルールを設けました。調べてもわからなかったら、友達に何のどこを見れば参考になるかを聞きます。

そして答えを見た後は、自分で解釈し直して、先生や友達に「これってこういうことで合ってる？」と聞きます。(聞いてばかり)

要は周りに頼りきるのではなく、**一回は自分で考えたり答えを出したりする**、という過程をはさむことが大事だと考えたのです。それを続けていくうちに、だんだん予測の精度が上がったり、前に調べたところだ！というものを強気で答えたり、という確かな手応えを実感するようになります。それがますます私をのめり込ませ、はじめは古典、英語のプリントを隅々まで調べ上げてから完成させるのにハマり、3年生になってからは地理や化学の資料集を常に開いて授業を聞いたり問題を解いたり…(数学は?) ついには自分が調べたりしたことを友達何人かに自慢気に披露したりするまでになります。(その友達はとっても頭がよかったので僕が言う前にだいたい知ってます)

スポーツでもゲームでも、仕組みや要領がわかってきて夢中になって、やればやるほど新しいことがわかってきて、ますます面白くなっていくような経験ありませんか？私にとっての漢文はまさにそんな感じでした。先生は僕の取り組みを褒めてはくれませんでした。やればやるだけコメントや添削が返ってくるのは嬉しかったですし、何よりじわじわと手応えが多くなってきたことが、頑張れた理由かもしれません。

君の夢が叶うのは 誰かのおかげじゃないぜ

ネットで検索すれば楽に大抵のことどころか、全ての答えすらもわかりそうな世の中だからこそと伝えたい。勉強していてわからなかったら、もちろん先生や友達に聞いてもいいし、解答冊子を見てもいい。(と僕は思います)ただ、最初から最後まで何かに頼るのはやめよう。これは勉強に限ったことじゃない。**自らの手でつかむ「発見」や「気づき」こそが、成長のために一番必要なのだと思います。**それは積み重なり、いつしか「手応え」や「自信」に変わります。それはあなただけのもの、きっとどんなに優れた教科書や参考書、もしかしたら教師よりも、助けになってくれるでしょう。

ところで、教師という仕事はおもしろいです。日々「発見」や「気づき」にあふれています。「今の説明はわかりづらかったかな。意外とここでつまづくのか。さっきのはもっとこう言えばよかったな」といった風に、どんなに準備した授業や指導でもみんなに対して万能ではないし、ましてや準備が許されない場面だってある。それでも、その授業や指導は正解に近いものでなければなりません。だからこそ日々悩みはありますが、その「発見」や「気づき」に向き合って、考え抜くことが大事なのではないかと思うのです。知識や経験の不足は、情熱でカバーする！

でもごく稀に「あ、今の生徒の反応よかった！笑ってくれた！」みたいな「発見」や「気づき」が訪れます。その一瞬は本当にうれしい。これだからやめられないぜ。

困ったときに限らず、時間があったら私たちに話しかけにきてみてください。一緒に悩み、考え、あなたの「発見」や「気づき」のお手伝いをします。そうなるための授業や問題を提供できるように努力します。共に成長していこうではありませんか。